

送 辞

雪国の、肌を刺すような冷たい空気も和らぎ、この雄勝野に吹く風に暖かい春の訪れが感じられるこの佳き日、栄えある卒業式を迎えられました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

今日、この学舎を巣立つにあたって、今、皆さんの胸には高校三年間の様々な思い出が浮かび上がってきていることと思います。雄勝高校最後の卒業生として、まさに有終の美を飾られる皆さんの晴れがましい姿を拝見して、後輩の私たちもまた、様々な場面で皆さんから親切に指導していただいたこれまでの懐かしい日々が次々によみがります。

皆さんのパワーや底力を実感したのが、運動会や球技大会などの学校行事でした。昨年度から、運動会と球技大会は、クラス対抗でなく、全校を縦割りにした全学年が混ざったチーム編成となりました。新しい取り組みの中でも、皆さんは、すぐに柔軟に対応し、チームをまとめ士気を高めてくださいました。熱気あふれるプレーや、試合の結果にかかわらず対戦相手のチームと健闘を讃えあう姿に、真のスポーツマンシップを実感しました。また今年度は地域の皆様にご指導いただき、初めてグランドゴルフに挑戦しました。地域の方々ともすぐに打ち解け、競技を楽しんでいました。そのような前向きな姿は、私達後輩にとって、素晴らしいお手本となりました。これらの行事や毎日の学校生活を通して、皆さんへの限りない信頼感と尊敬の念が湧いてきたことを今でもはっきりと覚えています。

また、今年度の勝高祭では、皆さんは進学や就職活動の忙しい中、限られた準備時間で、カフェを開いたり、リサイクルを行ったり新しい取り組みに果敢に挑戦されていました。また、練習を重ねたパフォーマンスを披露するなど、その実力、エネルギーは、この三年間で培われた企画力、実行力、団結力の賜であることを示してくださいました。最後の「勝高祭」を締めくくりにふさわしい素晴らしいものとして、生徒や職員、見てくださった人々の心に刻まれると思えました。後輩の私たちも、先輩の皆さんを見習い、「本校の伝統を引き継いで、今後の学校生活をさらに充実させよう」との思いを新たにしました。

この雄勝高校で、皆さんと共に学び、親切に指導していただいた日々は、私たちにとって他では得難い経験であり、素晴らしい先輩の皆さんは私たちの憧れであり、誇りでもあります。

さて、皆さんがこれから進まれる道は、必ずしもこれまでのようにはいかないかもしれません。しかし、今まで私たち後輩に示してくださいました指導力や、青春を謳歌される伸び伸びとしたパワーを発揮されて、臨まれるならば、必ずよりよい道が開けてくると思います。本校の学校生活で培った本物、良いもの、美しいものを見極める力を糧にして、自分の道を邁進されるものと、確信しております。

特に本校がボランティア活動等を通じて、進めてきた、人の痛みによりそう「人間的優しさ」をもって進まれるなら、どのような時代になっても、地域を問わず人間同士の温かみが広がり、心豊かで平和な世界が築かれることが期待できます。

今、私たちのお手本であった先輩の皆さんをお送りするにあたり、深い感謝の念と、心細さ、寂しさがこみ上げてきています。すでにご存じのとおり、本校は今年四月から、湯沢翔北高校雄勝校として、新たなスタートを切ります。雄勝高校の四十二年の歴史には一旦幕を閉じることになります。しかし、私達後輩は、皆さんと共に学び過ごしたこの校舎で、高校生活を続けていきます。新しい地域校においても、これまで指導していただいた事柄を参考にし、本校の歴史と伝統を継承し、よりよい校風の樹立を目指して努力していくことをお約束致します。雄勝高校の校歌にあるように、皆さんが「自立の枝葉を広げ」て、これからの道でご活躍されることを心より願っております。

最後に、卒業生の皆さんの今後一層のご健勝をお祈りし、送辞とさせていただきます。